



マリア出現の奇跡

上五島・長崎巡礼⑬

フランスとスペインの国境にあるピレネー山脈、そのフランス側のふもとにあるルルド。今から百五十二年前の一八五八年、寒村、ルルドにある洞窟で十四歳の少女、ベルナデッタに聖母マリアが出現するという奇跡が起きた。

イエス・キリストの母であるマリア。マリア像はいろいろあるが、ルルドに出現したマリアはロザリオを持ち、前面に水色の布が

あるのが特徴である。今回、上五島の教会を訪ねて、あちこちでルルドのマリア像を見た。十数年前、下五島・福江島を旅した時も同様で、特に南西端の井持浦教会のルルドのマリアは日本最初のものとして有名だ。

一八九九年（M32）、フランス人のベルー神父がルルドで聖母像を求め、五島全域の信徒が各島の奇岩、珍石を持ち寄って洞窟を造り、そこに収めたもの

である。
なぜ五島列島にはルルドのマリア像が多いのだろうか。

「聖母マリアの出現」…この種の話は世界各地にある。ルルドの場合も最初は少女の妄想、狂言などと言われたが、教会は委員会を設けて調査し「神の母、マリアがルルドの洞窟でベルナデッタに十八回出現された」とバチカンが公に宣言したのは出現から四年後の一八六二年のことである。

鯛ノ浦教会のルルドのマリア

(右端がベルナデッタ)



らわき出る水で難病が治るなどの奇跡が続いていた。

さて、ルルドでの聖母マリア出現と同じ年、日本では長く続いた鎖国政策が改められ、キリスト教禁教令下ではあるが、横浜、長崎などの外国人居留地では信仰の自由が認められ、パリ外国宣教会のフランス人宣教師

が来日した。

この二つの出来事の間には何の因果関係もない。しかし今回、上五島の教会を訪ねて二つの出来事が「ルルドのマリア」によって結び合わされているように思えた。

ルルドに聖母マリアが出現した一八五八年に外国人宣教師再来日。バチカンが聖母マ

リア出現を公に宣言した一八六二年に横浜にキリスト教会が禁教後初めて建てられた。これは偶然の一致ではあるが、開国後の日本宣教がパリ外国宣教会に託されたため、フランス人神父が来日した。隠れキリシタン・信徒発見で有名なブチジャン神父もその一人である。

来日した彼らが、自国フランスで聖母マリアが出現するという奇跡が起こり、総本山バチカンもその事実を公式に認めた。これが彼らにどれほどの勇気と誇りを与えたかは想像に難くない。

だからフランス人宣教師が中心となつて五島に隠れキリシタンであつた信徒とともに教会を建てた時、ル

ドのマリア像も建てたのである。

この事実気づいた時、何か大発見をしたかのように心がときめいた。私も二度、ルルドを訪れた。車いすなどに乗ったたくさんの病人、ロウソクを手に回復を祈って一緒に「アベ・マリア」を歌った。そして聖母マリアの出現を信じた。

神を見た人は一人もいない。しかしそれでも信じる、それが信仰である。聖書の中に、イエスが奇跡を行い病人が回復した際「あなたの信仰があなたを救った」と言われた。（元山口放送取締役ラジオ局長）



頭ヶ島教会のルルドの

マリア像